

山の百の花

読者会員 甲申 珍子

【5】ニッコウキスゲ（霧ヶ峰）

ニッコウキスゲの名所は多いが、私が最初にその大群落を見たのは霧ヶ峰で、そのときの感動は今も鮮明に記憶に残っている。山登りを始めて間もない頃のことだった。所属していたハイキングクラブでチャーターした夜行バスは早朝に白樺湖に着き、私たちは寝不足のボーっとした頭でリフトの脇の結構急登の道をあえぎながら登っていた。所々、レモン色のユウスゲが、霧の中にすらりと立って私たちを迎えてくれた。

やがて周囲は次第に明るくなりはじめ、どこか寂しげなユウスゲにかわって、華やかなニッコウキスゲがポツポツと現れだしたが、斜面は相変わらず濃い霧に包まれて少し先は何も見えなかった。やっと稜線に出たとき、一息ついて私たちの前で突然白い霧が、幕が引かれるように端からサーッと消えていき、その下から現れたのは一面のニッコウキスゲだった。大きな歓声が上がったのはいうまでもない。

その後、尾瀬の大江湿原で何十年ぶりか

の大豊作というニッコウキスゲのオレンジ色の絨毯を見たこともあったし、礼文島でニッコウキスゲの仲間であるエゾカンゾウの大群落に出会ったこともあるが、あのと霧のカーテンの向こうから浮かび上がった大群落を目にしたとき以上の感動を味わったことはない。やはりニッコウキスゲは霧ヶ峰の花である。



【6】レンゲツツジ（甘利山）

甘利山で似たような経験をしたのはそれから数年後のことであった。

その日は晴れの子報がはずれて朝から雨。私たちは恨みがましくブツブツ言いながら雨具を着て登っていた。ときおり木道の脇

のレンゲツツジの鮮やかな橙色が目を楽しませてくれた。

それでも甘利山から奥甘利の広い草原の尾根を過ぎて、千頭星に着いた頃にはどうやら雨もやみ、私たちは展望のきかない頂上で、雨具をしまってお弁当を広げた。

ぬかるんだ道を滑らないようにゆっくりと下って再び甘利山の頂上に出たとき、私たちは思わず目を見張った。目の前の斜面がレンゲツツジの橙色に覆い尽くされている。朝、登ってきた道はどこだったろうと見回して気がついた。私たちは朝もまさにこのレンゲツツジの大群落の中を登ってきたのだった。もし、雨がやむ前に下ることになったら、私たちは花の中を通りながら花を見ないまま帰ることになったのだと思うと、雨がやんでくれたことを天に感謝せずにいられなかった。

雨のときは「雨でも山はいいですねえ」晴れると「やっぱり山は晴れがいいですねえ」というのは何度も聞いた岩崎先生のセリフだが、山は初めから晴れよりは、霧の後の晴れ、雨の後の晴れが一番というのが私の意見である。